

沖縄県西表船浮方言

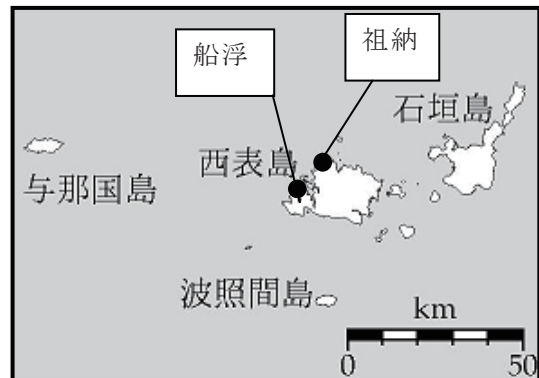
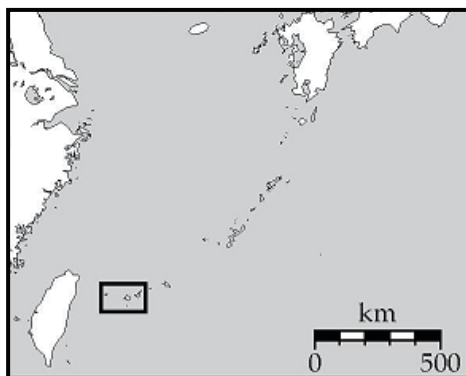
荻野千砂子

1 沖縄県八重山郡竹富町西表島の船浮（ふなうき）集落

竹富町地区人口動態票（平成 29（2017）年 1 月）によると、舟浮集落の人口は 51 名である¹。役場の書類上の表記は「舟浮」とあるが、話者によると、元来「船浮」が正しく、役場に間違っって届けたため、現在のような表記になったのだという。調査に協力してくださっている船浮方言の話者は、清水光江氏（昭和 3 年生まれ女性）と戸眞伊廣氏（昭和 15 年生まれ男性）のお二人である。お二人とも、現在、石垣市に在住している。話者の見解を尊重するため、今後「船浮」と表記することにする。船浮方言を話せる話者数を尋ねたところ、石垣市在住者と船浮在住者を含めた話者の数は 10 名にも満たないことが分かった。早急な記述が望まれる言語の一つである。

話者の話を聞いていると、西表島の西側の、祖納（そない）、干立（ほしたて）、白浜（しらはま）、船浮、網取（あみとり、1971 年廃村）で一つの文化圏を作っていた様子が分かる。西表島の東側の古見（こみ）や大原（おおはら）とは異なる文化圏である。この中で船浮は、天然の港に恵まれており、沖縄の本土復帰の頃まで台風の前夜など国際的な避難港として賑わっていたという。そのため、来港する船からもたらされる本土の音楽や文化に直に接する機会が多く、「船浮は、内地なみ（の文化環境）だった」と語る。生活について聞いてみると、確かに一般的な八重山の文化とは異なるところがある。一点目は「山羊を食べない」ことである。山羊を飼育はしていたが、糞を肥料とするのが目的であり、食べることはなかったという。二点目は「イノシシを刺身で食べない」ことである。西表島ではイノシシを捕獲して食べるが、祖納では新鮮なイノシシの肉を刺身で食べる習慣があった。それに対し船浮では「決して刺身で食べない。必ず火を通す。」と言う。同じ西表島でも異なる生活様式が伺われて興味深い。

（図）西表島船浮の位置²



¹ 竹富町 HP による。

² 国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏が作成した地図に加筆をしている。

2 先行研究

西表島方言に関しては祖納方言の報告がある。まず、久野真（1988）による音韻体系の分析があり³、金田章宏（2009）⁴（2010）⁵（2011）⁶では、格助詞や動詞の活用等の分析がなされている。船浮方言に関しては、町博光（1984）があるが⁷、これ以外に詳しい記述が無い。そこで、金田章宏（2009）で述べられている祖納方言の格助詞・とりたて助詞を参考にしながら、荻野千砂子（2017）では、助詞に関して意味用法の記述を深めることを試みた⁸。その結果、格助詞やとりたて助詞の形態は、祖納方言とよく似ていることが明らかになった。しかし、形態は同じでも、異なる用法があることも明らかとなった。祖納方言をさらに調査をすると、同様の現象が確認できるかもしれない。今後、両方の方言を比較考察することで、記述を深めることができると考えている。

3 音素に関して

今回の予備調査では、音素について主に調べた。久野（1988）では祖納方言の音素を次のように分析している。

母音音素：/a, i, u, e, o, ā/
 半母音要素：/j, w/

子音要素：/ʔ, h, g, k, d, t, z, c⁹, s, r, n, b, p, m/

拍音素：/N, Q, R/

船浮方言話者の感覚では船浮方言は祖納方言と似ているという話ではあるが、

荻野（2017）では次のように音素を考えた。

母音：/a, i, u, e, o, ā, a̠, u̠, (i)/

半母音：/j, w/

子音：/k, s, t, ts, tɕ, φ, h, m, n, r, k^w, g^w, z, p, b, g, d/

これに拍音素として、撥音 N、促音 Q、長音 R が加わる。祖納方言との相違として、無声化した母音を音素として立てることができるのではないかと考える。/a̠/が、[p]の前でミニマルペアができるためである¹⁰。

/a/：pari（針）

/a̠/：pa̠ri（走って）

話者は「走って（「走る」の連用形）」の[p̠a̠]を[pa]とは違う音であると判断する。そこで、

³ 久野真（1988）「西表島祖納方言の音韻体系」『琉球の方言』13

⁴ 金田章宏（2009）「沖縄西表島（祖納）方言の格ととりたての意味用法」『琉球の方言』33

⁵ 金田章宏（2010）「沖縄西表島祖納方言ーアスペクト・テンス・ムード体系の素描」

『日本語形態の諸問題ー鈴木泰教授東京大学退職記念論文集』ひつじ書房

⁶ 金田章宏（2011）「八重山西表島（祖納）方言動詞の活用タイプ」『琉球の方言』35

⁷ 町博光（1984）「西表島舟浮集落の方言敬語法」『広島女子大学文学部紀要』19

⁸ 荻野千砂子（2017）「西表島船浮方言の格助詞ととりたて助詞」『福岡教育大学国語科学研究論集』58

⁹ 久野真（1988）の p73 の表より、音声は[ts]である。

¹⁰ この例については白田理人氏よりご教示を頂いた。

他の子音の後でも無声音と有声音との対立があるかを調べることにした。音節は CV 構造で揃えた。

(1) /a/について

① /p/の後で対立がある。

/pa/ : pabu (はぶ), pada (肌), padanaga (なまけもの)

/pa/ : paŋi (走って), paŋi (羽), paŋa (花)

② /k/の後で対立がある。

/ka/ : kagaN (鏡), kazera (背中の中の肩の下あたり), kabutca (かぼちゃ)

/ka/ : kaŋi (亀), kaŋapai (鍬), kaŋmai (イノシシ)

③ /t/の後で対立がある。

/ta/ : tabi (旅), ta (taa) (田んぼ), tadema (今)

/ta/ : taŋi (竹), taŋi (種), taŋrai (桶)

④ /s/の後で対立がある。

/sa/ : saba (草履), saja (サヤ)

/sa/ : saŋa (砂糖), saŋi (月桃), saŋi (酒)

用例をみると /a/は、後続子音が無声子音でも有聲子音でも出現していることが分かる。よって、音声的な環境による母音の無声化ではないと考える。/a/を音素として認めてよいのではないかと考える。

(2) /u/について

次に、/u/について調査を行った。以下のように /u/も、後続子音の無声・有聲に関わらず出現しているため、/u/も音素として認めてよいのではないかと考える。

⑤ /p/の後で対立がある。

/pu/ : puri jui (豊年祭)

/pu/ : puŋi (骨), puŋi (星)

⑥ /k/の後で対立がある。

/ku/ : kukuru (心), kutusi (今年)

/ku/ : kuŋmu (蜘蛛), kuŋsine (腰),

⑦ /t/の後で対立ある。

/tu/ : tubu (飛ぶ), kutusi (今年)

/tu/ : tuŋno (卵), tuŋtei (妻)

⑧ /s/の後で対立ある。

/su/ : sunupa (藻)

/su/ : suŋnee (祖納), suŋuru (もずく)

⑨ /hu/では対立がある。

/hu/ : huna (魚の名。本土の鮒より小さい), huruja (便所), huku (肺)

/hɯ/ : hɯta (ふた), maihɯna (お利口さん), hɯteimu (挟む)

(3) /i/について

荻野(2017)では、/i/について無声と有声の対立があるか不明としていた。/ɯ/に関しては、/hu/と/hɯ/の対立があることがわかっていたので音素と考えていたが、/i/に関しては/kɨmissai/ (すばらしい) で音声揺れることがあった。しかし、その後の調査で、/kɨmu/ (肝臓) の/kɨ/は無声化し、/kizari/ (法事) の/ki/は無声化しないことが明らかとなった。/ki/も音素として考えてよいのではないかと考える。ただし、用例は少ない。語頭の[tei]は今のところすべて無声化する。⑫はどちらも「道」の意味だが、-na が下接したときのみ無声化する。

⑩ /k/の後で対立がある。

/ki/ : kizari (法事), kibusi (煙)

/kɨ/ : kɨmu (肝臓), kɨmissai (すばらしい)

⑪ /s/の後で対立がある。

/si/ : siba (心配), sikja (小バエ)

/sɨ/ : sɨma (島), sɨna (するな), sɨdatei (醤油)

⑫ /te/の後で対立がある。

/tei/ : mitei (道)

/teɨ/ : miteɨna (道)

4 まとめ

以上、本報告では、無声化した母音の/ḁ/, /ɯ̥/, /i̥/が音素として考えられる可能性を示した。ただ、無声化が起こるのは、無声子音 (/p//k//s/等) の後で、かつ音節構造がCVのときであり、音節構造がCVVの場合や、CVNのときには、母音の無声化が起こった例が見られない。/paɨsa/ (早く), /taaboo/ (たばこ), /huNda/ (廊下) のような例では無声化が起こらない。よって今後、無声化する条件が明らかになれば、音素ではなく母音の無声化と分析する可能性もある。さらに、無声化とアクセントとの関連も考える必要があるだろう。

そのほか、無声化した母音の後に鼻音の子音が来ると、音声的に鼻母音のように聞こえることがある。例えば、/maiɯna/ (お利口さん) は、[hɯ]の母音は[ū]のように聞こえる。また、無声母音の後の子音は無声化して聞こえる。例えば、/maiɯ̥na/ (お利口さん), /tɯ̥no/ (卵) のように聞こえる。これらは今のところ、音声的な現象ではないかと考えている。